

1. 評価報告概要表

作成日 平成21年10月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1072400243
法人名	有限会社恵
事業所名	グループホームめぐみ
所在地	甘楽郡甘楽町善慶寺900-12 (電話) 0274-74-7708

評価機関名	特定非営利活動法人 群馬社会福祉評価機構
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12
訪問調査日	平成21年9月24日

【情報提供票より】(平成21年 9月 10日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤	6人 非常勤 5人 常勤換算 7.1人

(2)建物概要

建物構造	木造平屋		
	1階建ての	1階 ~	1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(月額)	27,000 円	その他の経費(月額)	光熱費 実費
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は1日 930円		

(4)利用者の概要(9月 10日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1		名	要介護2	1	名	
要介護3	3	名	要介護4	2	名	
要介護5	3	名	要支援2		名	
年齢	平均	86.6歳	最低	76歳	最高	94歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立富岡総合病院・細谷病院・小幡医院・あらい歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園が広がる閑静な地に、事業所がある。職員は、『和顔愛語』の接し方を心がけ、利用者が明るく心安らかに生活できるよう、思いやりのある介護を心がけている。職員は、常に身体的・精神的ケアを充実させ、健康の維持増進、生き甲斐を持った生活をできるように、絶えず支援工夫を凝らしている。主治医や看護師との連携も密にとれ、利用者や家族が安心して暮らせる事業所づくりを目指している。

[重点項目への取り組み状況]

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題に対し、地域との交流を密にし開かれた事業所の実現に向けて取り組まれている。事業所が地域の方々と交流を深め地域の人達の利用できる場となり、災害時の協力願いの文書も配布し依頼している。運営推進会議では、家族の出席協力も得られている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価票を事務所に置き、職員の意見を求めて、項目「V・サービスの成果に関する項目」については全職員でチェックし、職場会議で話し合い管理者がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、3ヶ月1回開催し、家族の参加もあり、利用者の状況、行事報告、外部評価報告を行い話し合いをしている。次第の中に、「委員からの提案」を設け、気がついたことをお願いしている。構成メンバーに町職員があげられているが、町職員の参加はない。今後も行政の方の参加協力を、引き続き依頼することを期待したい。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族に「苦情申込窓口の設置について」の文書を配布し、面会時に希望・意見・苦情等を聴いている。苦情が出た場合は、全職員で話し合い、改善報告書にて問題解決にむけ取り組み、勉強の機会を持ち、今まで以上に真剣に取り組む姿勢を取っている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>散歩時には近隣の方と挨拶をしたり、地域の祭り見物には家族に車を出してもらい出かけている。事業所の花火大会には近隣の子供達と一緒に楽しんだり、ボランティアの方による三味線や踊り、手品を披露して頂いている。災害時には、地域の人に協力して頂きたい旨の文書を配布し依頼している。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は見直され、1. 利用者の尊厳の確立と利用者中心の介護。2. 身体的・精神的ケアの充実と生き甲斐作り。3. 地域との交流も密にし、開かれた施設を実現。4. 和顔愛語を常に心がけた介護。を、職場会議で検討し作り上げている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で、毎月の職場会議やケアカンファレンス等で理念を朗読し確認している。会議等で出た意見を付け加え事業所と地域の関係性を重視した理念を大切にしている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時には近隣の方と挨拶をしたり、野菜を頂くこともある。地域の祭り見物には、家族に車を出してもらい出かけている。事業所の花火大会には近隣の子供達の参加あり、ボランティアの方の大正琴や手品、踊りなどを楽しんでいる。また、地域の学校からの依頼で、高齢者介護について講話をしている。	<input checked="" type="checkbox"/>	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が、評価の意義を理解している。自己評価票を事務所に置き職員の意見を求め、項目の「V・サービスの成果に関する項目」は全職員にチェックしてもらい、会議で話し合いそれらを参考に管理者が作成している。前回の改善項目は職員と話し合い、地域の人達の交流の場と地域との協力体制作りに取り組んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/>	
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3ヶ月に1回開催している。ホームから利用者の状況や行事報告、外部評価報告をし、話し合いを行っている。会議次第に「推進会議委員からの提案」を設け、気がついたことのお願いをしている。メンバー構成に、利用者・家族・区長・民生委員・地元高齢者代表・町職員になっているが町職員の参加はない。	<input type="checkbox"/>	事業所と地域との交流促進のために、2ヶ月に1回以上開催し、行政の方の参加を引き続き働きかけたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の健康課介護保険係に、現況報告書を2ヶ月毎に提出し、空き情報を伝えている。町の広報には、施設紹介コーナーで事業所を紹介している。町主催の介護に関わる研修には、参加可能な職員は参加している。また、グループホームとして出来ることはないか話をして		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時に生活状況や健康状態等を報告し、変化があった時は電話で報告している。また、利用料請求時に、暮らしぶりやエピソードなどを記載した手紙や写真を入れて送付している。預かり金は、記帳内容と領収書を確認して頂いている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に「苦情申し込み窓口の設置について」の通知文を配布し、面会時には希望や意見、苦情等を聞いている。利用者家族からの苦情に対して、出された内容を職場会議で話し合い、改善報告書を提出し、問題解決に向け取り組んでいる。話し合いを通して、今まで以上に真剣に取り組む機会としている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の人事異動は極めて少なく、定年は65才で、3年以上交代もない。新しく職員が入った場合は、利用者に挨拶し、面会時に家族に紹介している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に積極的に参加し、認知症基礎研修を受講したり、富岡市主催の勉強会に参加し、参加後は全職員が共有できるよう伝達研修を取り入れている。また、必要と思う資料をコピーして職場会議で勉強をしたり、書籍や電子辞書を用意して自己啓発に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会の見学研修や交換研修等に参加している。グループホーム大会にも複数の職員で参加し、研修後は伝達講習を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用希望の方には見学をしていただき、来られない方には、自宅や病院に出向いている。また、利用を考えている人に助言したり、信頼関係を築くよう努力している。体験入居では、2～5日間泊まって頂いている。利用後は、好きな家具を持ってきてもらったり、話しかけを多くしたり、家族に様子を知らせる等取り組んでいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	焼き餅を焼いたり、料理の手伝いをしたり、俳句の上手な利用者に俳句を教えてもらったり、回想法を等して昔のことを教えて頂いている。散歩の時に、車椅子を押せる利用者には手伝って頂き、毎回お礼の言葉を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉で意思表示できる利用者には、出来るだけ話をし好きなことや生活歴を聞いたりしている。また、言葉で意思表示できない利用者には、笑顔等の表情やスキップで意思疎通を図り、できるだけ意向をくみとるように努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成者は、週2日の出勤である。本人との触れ合いに心がけて聞いたり、介護職員や家族から聞き取り、ケアカンファレンスの内容を重視しながら計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、3ヶ月毎にモニタリング、見直しを行っているが、介護職員によるケアカンファレンス時の見直し等の情報の記録がされていない。状態が変化した際には、検討見直しを行い計画を作成している。	○	介護現場にいる職員によるケアカンファレンスの計画見直し等の意見交換時に、計画作成者が参加していないため、カンファレンスの記録を残し、その意見を取り入れ計画作成の参考にされることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	必要に応じてまた利用者や家族の要望に応じて、受診やデイケア、墓参りや自宅での用事をする際に、送迎を臨機応変かつ柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向を大切に、かかりつけ医を決めている。事業所の協力医がかかりつけ医となっている利用者が多く、協力医が月2回の往診や夜間、急変時の対応もしている。受診は基本的には家族が受診に付きそうになっているが、不可能な時は職員が代行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	総合病院の緩和ケアの医師や看護師が来訪し、家族も参加した勉強会を行い、職員会議で話し合い看取りに対する方針を共有し、看取りを行っている。重度化の時の指針に沿って、家族の気持ちを重視して方針を決め、家族、訪問看護師を含めた話し合いを行い、最後は、協力医や家族のもと看取られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	着替えやおむつ交換等は人前で行わない等、利用者の誇りやプライバシーを傷つけない介護や言葉遣いに留意している。また、守秘義務の誓約書を交わしている。書類等の個人情報に関する物は、事務室に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日課表はあるが、利用者中心の介護を目指しているので、その人の楽しみや好きな話題・生き甲斐を考えながら支援に努めている。一人ひとりのペースを大切に、テレビを観たり自室で食後昼寝をしている方もある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食事の好みや味付けなどを聞いて、調理の参考にしている。じゃがいもの皮むきやテーブル拭き等出来ることを手伝っていただき、職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事するように心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴を原則として、失禁時にはシャワー浴をしている。入浴拒否をする利用者には、無理強いせず次日に再度声かけする事で入浴を支援している。また、入浴剤(草津の湯)や柚子湯を行い楽しく入浴できるようにしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	散歩時に出来る方には車椅子を押していただき活躍の場を設けるようにしたり、用事を兼ねてドライブに出かけたり、歌唱、ハーモニカやキーボードの演奏、軽体操、口の体操、散歩、俳句作りなど楽しみや気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	用事を兼ねたドライブや季節にあわせて花見・ぶどう・りんご・紅葉狩り等を年中行事として出かけている。また、一人ひとりの習慣や楽しみに合わせて、散歩やドライブ、墓参りなど戸外へ出かけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関と西出口には、日中人が通ると音声で知らせるセンサーを設置して、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしの支援をしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消火・通報・避難の訓練は、消防署の指導を受けて夜間も想定して、年2回利用者も参加して実施している。防火管理者を選任し、消防計画を作成している。地域の協力体制については、協力要請の文書を配布して依頼している。災害時の非常食として、缶詰やふりかけの備蓄をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取状況を毎日チェック表に記録して、職員で情報を共有している。栄養バランスとともに各人に過不足なく摂取しやすい形状に工夫をしたり、水分を不足しないよう飲み物の種類や氷を入れるなど摂取しやすい工夫をしている。飲まない利用者には、摂取量を細かく記入し情報を共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの中央にはテーブルが2つ置かれ、季節の花が飾られている。壁には、絵画や利用者の写真や作品、季節感を演出する植物もあり、生け花や果物などを絶やさないように努めている。テレビの前には大きなソファが置かれ、居心地良く過ごせるよう工夫している。トイレや浴室は広く、要所要所に手すりがある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、1人ひとりの身体機能にあったギャッチベットやマットの上に布団をしく等配慮されている。本人の使い慣れた家具や家族の写真や花を置き、居心地良く過ごせるよう支援している。		